

亜急性期外傷性脳損傷におけるSB623の有用性の検討に関する共同研究について

サンバイオ株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:森 敬太、以下「サンバイオ」と学校法人日本医科大学(東京都文京区、理事長:坂本 篤裕)は、亜急性期外傷性脳損傷におけるSB623の有用性の検討に関する共同研究に関する契約を締結しましたので、お知らせします。

外傷による死亡者数は全世界でおおよそ年間500万人とされ、全死亡原因の9%にあたります。15歳～29歳の若年者死亡原因の第1位が交通外傷であり、生産年齢人口を減ずる要因にもなっています。外傷の中でも特に頭部外傷患者の割合は高く、日本外傷データベース(Japan Trauma Data Bank, JTDB)の報告では、2012年から2016年の4年間で、入院を要した頭部外傷患者は約2万人であり、骨折など下肢外傷の発生率とほぼ同等です¹。

今回の共同研究は、日本医科大学医学部救急医学(横堀 将司 准教授)が外傷性脳損傷治療に対して研究を進めている幹細胞塗布人工硬膜技術をSB623に応用し、亜急性期外傷性脳損傷モデル動物を用いてSB623硬膜シートの有効性及び安全性を評価し、臨床試験に進むための必要なデータの取得を目指すものです。急性期外傷性脳損傷治療では、脳浮腫による二次性脳損傷を回避するために外減圧術が行われることがあり、頭蓋形成術の際にSB623硬膜シートを用いた脳機能再生の可能性を検討します。サンバイオは現在、SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムを実施していますが、本共同研究により対象となる外傷性脳損傷の患者さまを亜急性期まで拡げることを探ります。

<出典>

1: 日医大医会誌 2019; 15(2). 横堀 将司, 横田 裕行. 「頭部外傷の病態と治療」.
<https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms/pdf/015020071.pdf>

以上

サンバイオグループ(サンバイオ株式会社及び SanBio, Inc.)について

サンバイオグループは、再生細胞薬の研究、開発、製造及び販売を手掛ける再生細胞事業を展開しています。当社独自の再生細胞薬であるSB623は、慢性期外傷性脳損傷及び慢性期脳梗塞を含む複数疾患を対象に開発を進めています。東京に本社、カリフォルニア州マウンテンビューに支社を置くサンバイオグループの詳細は、<https://www.sanbio.com>にてご覧いただけます。

日本医科大学について

日本医科大学は「克己殉公」すなわち「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」を教育理念として掲げ、済生学舎として創設されて以来、140年を超えて1万人以上の臨床医・医学研究者・医政従事者を輩出してきました。テクノロジーの進化に応じ、各分野が横断的に連携して研究を行う土壌が培われており、多様化する社会からの医療に向けたニーズに対し、自由な発想に基づく研究に勤しむ研究者が多数在籍しています。

本件に関するお問い合わせ先

サンバイオ株式会社
経営管理部
メール:info@sanbio.jp

日本医科大学
救急医学 横堀 将司
メール:shoji@nms.ac.jp